

タイトル：『汐製菓会社の新作38』 『38』

登場人物

- ・ 汐（30代）…汐製菓会社の社長。新しい商品を考えることに全力を注ぐ。常にユーモアと大胆さを持っており、常識を打ち破る発想で知られる。
- ・ 塩田（30代）…汐の秘書で、お菓子好きだが、現実的な性格。汐の暴走するアイデアに振り回されながらも、なんとか会社を運営するために奮闘する。
- ・ 山田（40代）…汐製菓の技術開発部長。真面目で慎重派。汐のアイデアに対して慎重なアプローチを取る。
- ・ ライバル会社の社長（大山）…他社のお菓子会社社長で、汐の奇抜なアイデア

を常に嘲笑しているが、内心焦っている。

あらすじ

第一幕…奇想天外な発想と迷走の始まり

(シーン…汐のひらめき)

オフィス。大きなホワイトボードにはさまざま
な未完成の商品アイデアが乱雑に書かれてい
る。塩田が資料を整理していると、突然汐が
立ち上がり、エネルギーッシュに発言する。

汐…「次の新作は決まったぞ！ビスケット
だ！」

塩田（少し警戒しながら）…「ビスケット…普
通ですね。でも、どうせ普通じゃないですよ
ね？」

汐（満面の笑みで）…「そう！ロブスター味の
ビスケットだ！」

塩田（啞然としながら）…「…ロブスターです
か？お菓子里にロブスターなんて、誰が食べるん
ですか？」

汐…「これが未来のお菓子だよ！『面白きこ
とも無き世を面白く』だ。想像してみる、ロブ
スターの風味が口いっぱい広がるビスケット
を！」

塩田はしびしび承諾し、試作品開発が進め
られる。

第二幕…製品開発の波乱と社内の不安

（シーン？…技術部とのミーティング）

汐、塩田、そして技術開発部長の山田が会
議室に集まり、試作の話を進める。山田は真
剣な表情で資料を見つめている。

山田…「社長、ロブスターの風味をビスケットに取り入れる技術的な問題がいくつかあります。まず、魚介系の香りをビスケットに合わせると…」

汐…「問題なんてない！山田君、君は何か新しいことに挑戦したことがあるか？常識を打ち破るんだ！」

塩田（小声で）…「常識を打ち破りすぎです…」

山田（苦笑しつつ）…「ですが、社長、味覚の調整や保存性に難しさがあるかもしれませんが。それに、ロブスターの風味をどうやって再現するのか…」

汐…「そんなことは些細なことだ。俺はインスピレーションが全てなんだ！さっそく試作品を作ってみよう！」

技術チームは不安を抱きつつも、社長の命令には従うしかない。試作品の開発が進む。

第三幕…試作品完成と試食会の波乱

(シーン⑤…試食会でのトラブル)

試作品が完成し、社内の試食会が開催される。参加者たちは一口食べて、顔をしかめる。

社員A:「…なんだこの味、海っぽいけど、ビスケットに合ってるかは微妙です…」

社員B:「甘さとロブスターの風味がぶつかり合ってますね…」

汐:「これこそ革新だ！人々は新しい味に慣れていないだけだ。慣れれば虜になる！」

塩田(内心不安を抱きつつ)…「これ…本当に売れるんでしょうか？」

その後、社員たちが試作品について慎重にフ
ィードバックするが、汐は自信満々。

第四幕…ライバル会社の動向と新たな挑戦

(シーン④ ライバル会社の出現)

場面はライバル会社の大山社長のオフィスに
切り替わる。汐製菓の新商品開発の噂を聞
いた大山が、秘書と共に苦笑する。

大山…「あの汐がまた妙な商品を出してるら
しいな。ロブスター味のビスケットだと？バカバ
かしい！」

秘書…「はい、しかし、汐製菓は過去にも奇抜
な商品で成功していますので、油断はできま
せん。」

大山…「確かに、あの男の妙なアイデアには驚
かされるが…今回は無理だ。うちは正統派で
攻めるぞ。」

このライバル企業の存在が、汐に新たな火をつける。

第五幕…市場調査と世界進出の挫折

(シーン5…海外での試食イベント)

汐製菓は自信を持って海外市場に進出し、アメリカ、フランス、イギリスで試食イベントを開催。しかし、反応は冷ややか。

アメリカ人参加者…「このビスケット、なんでロブスターの味がするんだ？ 甘いのかしょっぱいのか分からない…」

フランス人シェフ…「これは一体何の冗談だ？ フレンチ料理を侮辱しているのか？」

イギリス人紳士…「ビスケットには紅茶が合うと思っていたが、このビスケットには紅茶ではなく、海水があるな…」

汐（焦りつつも平静を装う）：「これはまだ最初のステップだ。もっと工夫して、次の市場に進もう！」

塩田（完全に疲れ果て）：「次の市場ってどこですか…？」

汐：「猫市場だ！」

第六幕：猫市場での逆転劇

（シーン⑨：猫専用ビスケットへの転換）

汐は猫用のロブスター味ビスケットに商品を転換し、ペットショップとの提携を決める。猫用試食会が開かれ、猫たちはビスケットに飛びつく。

塩田（驚愕）：「猫たちがこんなに喜ぶとは思いませんでした…！」

汐：「そうだろうか？俺の先見の明は間違ってたかった！これからは猫市場で勝負だ！」

塩田：「…でも、人間向けのお菓子はどうなるんですか？」

第七幕…結末と次の挑戦

(シーン)…大成功と次の奇妙な発想)

猫市場での成功を収めた汐製菓。ニュースで「猫に革命を起こしたビスケット」として報道され、売り上げが急増。

ナレーション：「こうして汐製菓は新たな市場で成功を収めた。しかし、次なる挑戦はまた奇妙な方向へ向かおうとしていた。」

汐：「次はこれだ、塩田！『タコ味ビスケット』だ！」

塩田：「もうやめてください…！」

観客の笑いとともに幕が下りる。